

事業レビュー①－17

「ごみ処理手数料及びごみ袋等取扱手数料の見直し」

ごみ指定シール方式導入実証実験検証結果

【実証実験概要】

- 参加自治会

村上地域：小国町、岩船北浜町、緑町五丁目、坪根、柏尾

荒川地域：野口、貝附、名割

神林地域：牧目、岩船駅前

朝日地域：檜原、関口、十川

山北地域：脇川、北中、伊呉野 対象世帯：1, 022世帯

- 実験期間：令和7年9月から令和8年3月まで（7か月間）

- 対象ごみ：燃やすごみ、燃やさないごみ

- シールの種類：袋のサイズを問わず1種類

- 袋のサイズ：最大45リットル（指定袋「大」と同サイズ）

1 検証方法

◆ 収集事業者による収集状況報告

シールなし、袋サイズ超過、破袋の件数報告

◆ アンケート調査の実施

実証実験参加者、市内全区長、収集事業者

2 収集状況報告

※ごみ袋総数見込み $1,022\text{世帯} \times \text{週}2\text{回} \times 28\text{週} (7\text{か月}) \times 0.6 \div 34,000\text{件}$

地域 違反等	村上地域	荒川地域	神林地域	朝日地域	山北地域	計	違反等 割合(%)
シールなし	13件	11件	0件	21件	0件	45件	0.13
袋サイズ超過	75件	1件	0件	14件	0件	90件	0.26
破袋	4件	0件	0件	22件	1件	27件	0.08

3 アンケート調査実施状況

- 調査期間：令和8年3月13日から4月17日
- 調査対象：実証実験参加者（1,022世帯 回答者514世帯 回答率50.3%）
区長（273人 回答者213人 回答率78.0%）
収集事業者（全7事業者 17人）

- アンケート項目

- （実証実験参加者）：1 居住地域、2 世帯人数、3 世帯主年代、4 現行指定袋の評価、5 現行指定袋で困っていること、
6 実証実験に参加しての感想、7 自身で用意する袋を選ぶときの困難さ、
8 自身で用意した袋の価格、9 自身で用意した袋の大きさ、10 シール方式導入について、
11 シール方式の場合手間は増えたか、12 シール方式導入における市民のメリット、
13 シール方式導入における懸念される課題
- （区長）：1 居住地域、2 現行指定袋の評価、3 シール方式導入について、
4 シール方式導入における市民のメリット、5 シール方式導入における懸念される課題
- （収集事業者）：1 担当地域、経験年数、2 作業効率・負担、3 シールの識別、4 作業時の安全性、5 市民対応、
6 シール方式と袋方式との比較評価

4 検証結果

ごみ指定シール方式の導入については、現行のごみ指定袋方式の満足度が高いこと、地域によって導入に対する意見の差が大きいことから、早期に導入することは困難である。

一方、最近のプラスチック製品の価格高騰により、次年度以降作成するごみ指定袋の価格上昇が見込まれることから、袋とシールの詳細なコスト比較や懸念される課題への対策を示すことで、ごみ指定袋方式とごみ指定シール方式の比較検討を進めたい。



比較検討に向けた今後の取組

- ◆ 指定袋方式を継続した場合の値上げ幅、指定シールの価格、種類の両方を示し、市民へ指定袋方式と指定シール方式の比較材料を提示する。
- ◆ 指定シール方式の理解を深めてもらうため、実証実験範囲を広げることを検討する。

5 今後の進め方

価格の提示（例） ※ごみ収集委託料への充当率を20%程度とした場合で算出

ごみ指定袋を値上げした場合

大35円 ⇒ ○○円

中25円 ⇒ ○○円

小15円 ⇒ ○○円

ごみ指定シールの価格

45ℓまで ⇒ ○○円

レジ袋程度 ⇒ ○○円

+

自ら用意する袋代



実証実験範囲を広げることやアンケート調査により、広く市民の意見を聞く



「ごみ処理手数料」の徴収方式の決定

6 アンケート分析① 実証実験参加者

① 現行のごみ指定袋に対する評価

- 現行のごみ指定袋方式については、「とても満足」「満足」を合わせた割合が全地域で40%以上を占めており、一定の評価を得ていることが示された。
- 山北地域を除く多くの地域で「購入価格が高い」という意見が40%以上を占め、価格に対する不満が多いことがわかった。その他、袋が破れやすい、サイズが適切でない、といった意見も寄せられた。

② ごみシール方式の実証実験に対する評価

- ごみ指定シール方式の実証実験については、山北地域を除く地域で「とても便利」「便利」との回答が30%以上を占め、利便性への期待がうかがえる。
- 自分で用意する袋を選ぶことに関しては、全地域で「難しい」と感じる人が「簡単」と感じる人を上回った。これは、袋の選択肢が多く、適切なものを選ぶことに戸惑いが生じていることが伺える。

③ ごみシール方式導入に関する意見

- ごみ指定シール方式の導入に対する賛否については、地域によって大きな差が見られた。神林地域では「とても賛成」「賛成」の合計が56.4%と高かったのに対し、山北地域は28%と低調だった。荒川地域では、「とても反対」「反対」の合計が賛成意見を上回る結果となった。
- 導入に関する主な意見としては、「現行の指定袋より安く済む」「市販の安価な袋を使える」「ゴミの量に合わせて袋のサイズを選べる」といったコスト削減や利便性向上への期待が寄せられた。
- 「市販の袋は薄く破れやすいため、二重にする手間とコストがかかる」「シールの貼り忘れ、剥がれが心配」「指定袋のように色がついていないため、プライバシーが心配」といった懸念も多く指摘された。
- 「慣れている今の指定袋が丈夫で一番良い」という現行方式への根強い支持も見られた。

④ ごみシール方式導入の影響と課題

- シール方式導入によるごみを出す際の手間や時間の増加については、荒川地域のみ40%超が「増えた」と回答しており、他の地域は10～20%台であった。
- 導入した場合のメリットとしては、現行指定袋より単価を抑えられること、ごみの量に応じてサイズを選べること、家にある袋を再利用できることなどが挙げられた。
- 懸念される課題としては、貼り忘れによる回収されないリスク、市販袋の強度不足によるごみの散乱と清掃負担の増加、プライバシーへの配慮、袋とシールを買う二重の手間、高齢者の負担などが挙げられた。

6 アンケート分析② 区長

① 現行のごみ指定袋に対する評価とシール方式への意見

- 現行のごみ指定袋方式については、「概ね良い」「課題がある」「改善が必要」といった評価が見られた。
- シール方式の導入については、「反対」「どちらでもない」「賛成」「条件付き賛成」と意見が分かれたが、反対意見が多数を占める傾向にある。
- 反対の理由としては、現行方式に慣れていること、高齢者への負担増、ルール違反の増加、ごみステーションの管理負担増、袋の強度不足による環境悪化などが挙げられている。

③ シール方式の具体的な情報

- 回答者の多くが、シール方式の導入に関する詳細な情報（シールの価格、仕様、導入による具体的な財政削減効果など）が不足しているため、賛否を判断できないと述べている。
- 今後の検討においては、具体的なシールの価格提示や指定袋の値上げ幅等の情報提供を行い、市民の理解と納得を得る必要がある。

② 市民へのメリットと懸念される課題

- シール方式導入による市民へのメリットとしては、「市販の安い袋を自由に使える」「手持ちの袋を活用できる」といった経済的な負担軽減や利便性の向上が期待される一方、「メリットはあまりない」「メリットは考えられない」といった意見も多く見られた。特に、シールの価格や詳細が不明なため、具体的なメリットを判断できないという意見が多数を占めている。
- 懸念される課題としては、シールの貼り忘れや不法投棄の増加、ごみステーションの管理負担増、袋の強度不足による破れや汁漏れ、カラス被害、収集業者への負担増、袋とシールの二度手間によるコスト増などが共通して指摘されている。
- 高齢者への負担増や、ルール違反が増加することへの懸念も強く示されている。

6 アンケート分析③ 収集事業者

①作業負担・効率

- 多くの担当者から「やや増加」「どちらでもない」という回答が得られ、従来の指定袋方式と比較して作業時間が変化しない、あるいは増加したという認識が示された。
- 袋の薄さや材質の違い、シールの確認作業の増加が負担増の要因として挙げられている。

②シールの識別、確認のしやすさ

- 「しにくい」「悪い」という評価が多く、ごみ出しルールの確認や指定シールの視認性に課題があることが明らかになった。
- シールの貼付位置が不適切であったり、ごみの置き方によって隠れてしまったりするため、確認に手間取ることが作業効率の低下を招いている。

③収集作業の安全性

- 袋の強度不足による破袋やごみの飛散、夏場や重いごみ・汁物に対する液漏れや悪臭への懸念が報告されている。
- 市民が使用する袋の材質や強度が一定でないことに起因していると考えられる。

④市民対応・トラブル

- ルールの解釈に関する問い合わせや、プライバシーへの懸念、袋の強度不足や確認作業に関する現場での困りごとが報告された。

⑤袋方式とシール方式との比較

- 指定シール方式の現場での感想として、「現行の指定袋」の継続を望む意見が多数を占めた。
- 任意の袋を使用することによる強度不足や、他の資源ごみとの判別が困難になる点などが課題として挙げられている。
- 指定袋方式と比較した評価でも、指定シール方式よりも指定袋方式の方が優れているという意見が優勢であった。